

共に学び合い次の闘いに



No. 2628
2012年6月10日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

春闘中間総括会議

地方本部は5月12日、青葉区中央市民センターにおいて12年春闘の中間総括会議を開催した。
会議には各支部と分会代表が参加し、それぞれの機関においての総括を持ち寄り、賃金闘争をはじめ、労働条件改善や組織問題等、様々な角度から活発な意見を交わし、全体で総括。大会までの取組みについて意思統一を図った。

集会の冒頭、地本大沼委員長は、JRを始めとした国内の春闘の闘いの結果と国内外の政治・経済情勢に触れた後、「我々の様々な要求獲得と諸課題の克服に向けて、各機関において創意工夫した取組みがされてきている。その努力や苦労、成果を報告し学び合い、次の闘いに結びつける集いにしよう」とあいさつ。
東北交運共済仙台事業部伊賀所長からあいさつを受けた後、東日本本部松井書記長から経過・情勢と今後の課題について報告を受けた。
続いて地本五十嵐書記長が、今後の取組みの柱として①組織拡大、②差別是正、③原発・放射能問題等について提起をした。

各支部報告

山形県支部 原田委員長

▼豪雪もあり、春闘を始めとした諸課題について十分な意思統一が出来なかった。今後の反省材料としたい。

福島県支部 佐藤書記長

▼国鉄闘争の終結を受け、国労福島県闘争本部が解散。改めて闘いの総括が必要。
▼12春闘。2月4日、春闘討論集会を開催。春闘と合せ新採獲得の取組みについても意思統一。
▼組織強化・拡大。郡山駅・信通・保線の各分会で新採獲得の取組みを展開。郡山駅連の取組みでは、他労組が新採者を連れ去るなど強引な扱いが。地本を通じ支社に抗議。郡山駅長にも今後の対応を求めた。
▼上野支部との組織対策交流会を企画。
▼他労組の若手社員の不満不満を組織し、運動を展開していく。
▼反原発。福島県民大集会では1万6千人を結集し成功。各地の組合員に感謝。
▼放射能問題で団交しているのは国労のみ。今後も調査活動を強めていく。

宮城県支部 八巻副委員長

▼12春闘。賃金・生活実態アンケートの取組みからスタート。2月16日、支部総決起集会を開催。
▼3/9・10では5割動員確保。支社前チラシ配布では枚数が足りなくなるほど。単産独自でチラシ配布・集会・デモは国労だけ。意義のある行動。
▼職場集会は殆どの職場で実施。現場での交渉は「社員の声」の立場で仙台駅連・仙石線駅連・仙台建築・仙台保線・岩沼駅連・小牛田運輸区・東工所分会で交渉、設備改善等が進んだと報告が。
▼貨物宮城では今年も創意工夫した取組み。宮城野運輸区・小牛田運輸区・仙石線駅連分会で分会間交流会。北部現業でも交流会を実施。継続し、分会活動の活性化と組織強化に活かす。
▼賃上げ。貨物は13年連続ベアゼロ。抗議行動の最後シュプレヒコールをすべきの声。
▼組織対策。1月16日と3月30日に組対会議を開催。5月29日に組織強化拡大大会で総括する。
▼反原発。3・11集会等への参加を取り組んできた。放射能問題では岩沼駅連合を中心に線量調査を実施。

5月15日 第9回地本執行委員会
5月17-18日 第13回東日本軟式野球大会
5月26日 第17回地本電気協議会定期委員会
5月27日 エルダー職場交流集会

仙総支部 高橋書記長

▼12年度総合車七業務改善案(△4)。支部・分会業務部が連携し要求集約、3月の4回の団交につなげた。
▼12春闘。春闘強化に向け昨年12月に闘争委員会を設置し4回の開催で意思統一。
▼現場長要請行動。支部は3月7日、総務科に要請。分会では全ての科で「交渉の場はない。現場で聞く」の姿勢。今後工夫したい。
▼エルダー。支部に担当者配置し、アンケートをもとに実態調査を実施。
▼学習会・大衆行動。2月22日、地本役員等を招いて会社施設で春闘学習会。3月8日は支部総決起集会。9日、10日の行動につなげた。(3日間延185人)
▼組織強化・拡大。分会毎に温度差。分会集会の開催を要請。車体分会では地本役員等を招き情勢認識の一致を図った。プロ採用者配属当日、接触できたが不十分な結果に。支部組対委員会に議論していく。

5月31日 団交(郡山お忘れ物センター関係)
6月2日 地域間異動者激励交流会
6月9日 第7回アスベスト学習会

郡工支部 橋本書記長

▼12春闘。12月、11年度業

自動車支部 北山副委員長

▼12春闘。9・10両日は遠



報告する北山副委員長

2月に夏季ダイヤ交渉、51項目の要求。主なものに深夜乗務手当の改善。七北田営業所も昨年4月に廻り支払うことで合意。突如他労組が「勝ち取った」と掲示したため地本を通じ抗議。他労組のやり方に憤り。掲示板(情報綴り)を要求し、2人以上の職場に掲示。
▼高速ツアーバス7人死亡は組合問わず「明日は我が身」。ツアーバスが問題ではなく、厚労省の労働基準が甘い。小泉・竹中の規制緩和以降何でもあり。バス業界は低運賃、激安の競争。バス東北も契約社員、プロパー、出向社員がおり、繁忙期は特に要員不足。賃金が安い契約社員は休日売りを酷使しないと金にならない実情。労働時間等について、5月中旬に国交省から答申が出される模様。
▼他労組の様々な妨害があるが、こうした状況を議論し広めていかなければ現状は変化しない。安全を守るためにも粘り強く頑張るしかない。
【※編集部注 他にも多くの発言がありました。紙面の都合で次号に掲載します】

東日本野球大会 抽選に笑い抽選に泣く 次回は優勝狙うぞ！



尻上がりに乗ってきた大倉



大量リードに余裕の阿部（貴）



速球で押す押切



投打に奮闘した安井

5月17日、18日、大井ふ頭中央海浜公園野球場で、第13回国労東日本本部軟式野球大会が開催された。この大会は、東日本エリアの9地方本部（東京のみ2チーム）の10チームで戦われ、前回大会（09年）では仙台チームは3位の実績がある。

「今回こそ優勝を！」と意気込んだ仙台チームの成績はどうだったのか。仙台は組み合わせ抽選の結果、初日ダブルヘッダーの強行軍。予選1回戦は自力のある盛岡と対戦。先発

の大倉は調整の時間もないままマウンドに上がり、初回に5点を許す。ただ尻上がりに粘りの投球を見せ、その後の失点は1。だが残念ながら見方の援護がなく、結果は1対6の敗戦となった。

「勝負内容は互角。初戦の立ち上がりさせ凌げばウチも行けるんだが・・・」と落合監督。前大会でも聞いたような・・・。

予選2回戦は強豪東京A。気持ちの切り替え胸を借りるつもりで戦いに挑んだ。活きがいい助っ人も加わ

り、触発されたのか打線が爆発。先発阿部（貴）も要所を抑えて無難な投球。ベッチでの舌も滑らかだ。火消しの押切の制球が定まらず追い上げられたが、10対8で逃げ切り1勝をもぎ取った。

第一の勝因はキラリと光った助っ人の好球必打と好守備。そしてコーチャーボツクスの「將軍」橋本（守）の存在だろう。「一体どちらの味方なのか？」という激励もあったが、ともすれば重苦しい雰囲気になりそうなのベンチの空気を入れ換



主砲中鉢のナイスバッティングも雨に泣く

える絶妙の掛け声は流石だ。そして英気を養い臨んだ大会翌日は、Aブロック予選1位通過の盛岡と予選敗退が決まった水戸を除いた仙台・東京A・秋田が同率2位。

規定に則り厳正なる抽選の結果、高崎地本との3位決定戦に駒を進めた。

仙台地本の秘蔵っ子、安井が先発し、投打に活躍。打線も主砲中鉢を始め適時打が集中し、試合を有利に進めていた。

だが突如雨雲が会場周辺を覆い、激しい雷雨に。直近で何度も落雷があり試合は中断。だが既にグラウンドは使える状態になった。大会事務局の判断で決勝と3位決定戦が中止となり、再度くじ引き抽選の結果、仙台チームは4位に。ノーゲームのため、安井の好投も中鉢を始めとした仲間の好打も記録には残らなかった。だが、仙台サインの記憶には今日のゲーム内容はしっかりと刻まれたはずだ。次回こそ。

【敬称略】

国労仙台地本電気協議会は、5月26日、青葉パークビル会議室において第17回定期委員会を開催した。議長に代田委員を選出し、冒頭挨拶に立った千葉議長は、「東日本大震災、原発事故による放射能問題が収束しない中、職場では今なお設備事故や車両トラブル等による輸送障害が多発しており、JR東の安全・安定輸送のあり方に対して社会的にも厳しい批判が出されている。また墜落死亡や感電等の傷害事故も依然として発生している。更に大根原踏切事故では信通社員2人に對し懲戒解雇処分が出されている。どのような理由にせよ許されるものではない。労働組合として会社の安全体制に対するチェック機能が重要であり、会社施策の実施後の検証を電気協議会組合員が丸となって取り組もう」と訴えた。

地電協が委員会

また、来賓として、東日本電気協議会から高橋事務局長、仙台地本歌川副委員長がそれぞれの立場から挨拶を述べた。

議事に入り、経過、会計（決算・予算）、運動方針について質疑応答が行われ、全て承認された。新役員は以下の通り。

議長	千葉 薫
副議長	堀切 彰
事務局長	大橋 康
（分科長）	
変電	堀切 彰（兼）
幹線電力	立山 昭仁
在来電力	橋本 幸一
通信	梅宮 繁
幹線信号	千葉 薫（兼）
在来信号	菅原 裕司
貨物	小野 孝二
事務	佐々木 茂
会計監査	薦 修二

地域間異動者との交流

6月2日、東京大井町の「日本海庄屋」で第34回地域間異動者交流交流会を地域間異動者6名、仙台地本から5名、来賓4名の15名の参加で開催しました。

主催者を代表し中島副委員長からは「以前の強制的発令による、ある組合員の退職を機に、地域間異動者同士が交流できる場を作り支え合おうという主旨でこの交流会が始まりました。現在は本人希望という形で10名の方がおりますが、健康に十分留意して下さい」と挨拶が行われました。

また、今回の交流会には昨年国労に復帰加入された東京地本上野支部亀有駅分会の斎藤文男さん（さくらんぼ東根駅出身）と亀有駅分会長も参加され、加入までの経過が話されました。約3時間の交流会でしたが、各参加者からは自分の経歴や近況報告、現在の思



斎藤さん（前列中央）を囲んで